

上新城

ふるさと
瓦版

Vol.
21

紙上交流サロン

2025年の干支は「へび」。へびは神の使いや、金運の象徴とも言われます。
今回は、上新城地区振興会 三役のみなさんにご登場いただき、へびに関する
エピソードや、新年に思うことをうかがいました。

今回の
テーマ

へび



今回の話し手

保多野 三浦 吉壽さん 写真左

上五十丁 渡邊 良雄さん 写真中央

道川 相澤 恒男さん 写真右



— 今年へび年。干支では乙巳(きのとみ)という
年に当たり、再生や変化、しなやかに成長、
ということがキーワードとなるそうです。

渡邊さん へびをテーマにと言われても困っ
ちゃってね、未年でおとなしいもんだから。言い
伝えでは、真山神社のけやきに大蛇が住んでいて
にらんでいる(守っている)そう。ネズミやモグラを
獲ってくれるし、殺すもんでないと言われてきたな。

相澤さん 例外なのはマムシ。焼酎に漬けてつくる
人もいたよな。駅伝やる人が強壮剤代わりに飲んでた。
三浦さん マムシは全長約50cmと他のへびよりは
短いが、ずんぐりしていて斑点模様があつて、動きが
鈍いからすぐ分かる。切つてもしばらくは動いて
いるし、しぶといんだよな。

— すこい生命力ですね。不老長寿や、縁起の良さの
象徴になったわけですね。

三浦さん でも最近はへびを見ることも減つたように
思います。だいたい草刈機で巻きこんでしまっ
ただけ、年に何匹も見なくなった。エサがなくなつて
きているのか、自然も変化してきているのか。

渡邊さん 気候の変化はあるかも。猛暑日が続く
ようになって、虫害や大雨とか、農作物もいろいろ
影響を受けている。昨年は、米はよかったけど「リンゴ」は
作柄がよくなかった。



最近へびを
見ることも
減つたように
思います



相澤さん 人は快適な場所に移動できるけど、
作物は動けねえから。逆にここ数年で増えて
いるのがイノシシ。雑食で、子連れで田んぼや畑の
作物にいたずらする。中途半端にかじるし、まずい
ものは食べないから腹悪い。
渡邊さん 人口は減つてののに動物は増えてる。
共存でなくて競争だな。

— 自然の問題はどうにもできないだけに、
やるせないですね。

相澤さん どうにもできない点でいうと、農家の
後継者不足も深刻な課題だな。体力の続く限り

— どうかやっていくけど、簡単に「やめろ」とは
できないし。若い人にとっては生活の場が農村とは
限らないし、米作りだけで生計を立てるのも難しい
から、勧めにくいんだよね……

三浦さん 今は農業機械(田植機、トラクター、
コンバインほか)で作業するから、昔と比べると
きつくないけど、稲作のみで経営(生計)をする
となると、ある程度の経営面積や設備投資が必要と
なりますし、新規参入する場合は、家が建つくらい
お金かかるんでないかな。農業をどうやっていくか、
真剣に考えないといけない時期にきている。

渡邊さん 農村は、食料生産の場でもあるし、
そこでの生活が一体化した社会でもある。国も先を
見据えて政策展開してくれればな。

どうにもできない点
でいうと、農家の
後継者不足も
深刻な課題だな



— 生業のお話になってきました。今年の展望と
いうか、これからの農村はどうなっていく
でしょうか？

渡邊さん 昨年は米価が上がったからよかった
けど、生産費を賄えるくらいの「適正価格」を設定
できる環境があれば、若い人も参入しやすくなる
のかもしれない。コストを下げるための大規模化は
キリがないし。

相澤さん なるようにしかならないけど、少しでも
良い方向にいくようにも考えてる。活性化まで
いなくても、現状が悪くならないようにつないで
いこうと。

渡邊さん 退職後の65歳からでも、農業継いで
くれればいいんだけど。三浦さんみたいに。

三浦さん 若い芽も育つてきているのも確か。
大事にしながら続けていければ。

相澤さん 若い世帯も一緒に住めば、お互いすぐ
プラスなのに。住宅費も電気代もかからないし、
子どもの送迎もできるし、なんで別居になるんだろう？
自立してるのは歓迎なんだけど、価値観の違いも
あるのか難しいな。

渡邊さん 子ども世帯は、近くの地区に住んで
いたりするのが現状だな。上新城は秋田駅まで

15分なのに、過疎なんてありえない。

相澤さん 昔は行き合った人に「寄って休め、酒つこ
飲んでいけ」って気軽に声をかけて密に話ができた。
今はないもんな。こういう田舎の良さが伝わって
いけないのはつらいなあ。

渡邊さん 農業には生産の喜び、仲間意識、
生きがい、サラリーマンにはない豊かさみたいな
ものがある。それは他の産業と比べて、ずぬけていると
思っています。なかなか「これ」といった見通しや
策には至らないけど、農業を主体的にやりながら、
みんなで関わりあつて生きていける地域社会が
維持されていけばいいな。



農業には生産の喜び、
仲間意識、生きがい、
サラリーマンにはない
豊かさみたいなものがある

— なかなか「へび」な現状があるということ
ですが、これからについて、示唆に富んだお話を
ありがとうございます。どうか明るい年と
なりますように。

【乙巳】きのとみ

令和7年は、十干十二支の組み合わせで
みると、乙(きのと)巳(み)。十干とは、樹木の
成長サイクルを10段階で捉えたもの。十干は、
その年を12種類の動物に例えたもので、時刻や
方角を示すこともあります。

「乙」とは、草木の芽がまだ伸びきらず曲がつて
いる段階。きしみながらも力強く生え出す姿を
表しています。「巳」はへびのことですが、前進
運動と脱皮により成長する様子から、再生や
変化、革新を意味する
そうです。

そのたくましい生命力
は、神聖な生き物と
しても認識されて
きた通りですね。
ちなみに来年は
「ひのえうま」です。

乙巳
きのとみ

